

< VI 展示研究報告 (3) >

令和3年度第33回特別展 「新たな出発点—東京家政学院生活文化博物館の30年—」

川本 利恵*

はじめに

令和3年度は、第33回特別展「新たな出発点—東京家政学院生活文化博物館の30年—」を、令和3(2021)年10月26日(火)～令和4(2022)年2月4日(金)の期間、千代田三番町キャンパス(以下「三番町」という。)1号館ロビーにおいてパネル展示として、11月8日(月)～令和4(2022)年2月4日(金)の期間、本展示として町田キャンパス(以下「町田」という。)生活文化博物館にて開催した。

当館は昨年度30周年を迎え、特別展も巡回展に参加するという新たな試みをした。平成2(1990)年の開館以降、年に1回(初年度のみ2回)開催してきた特別展の企画は、博物館学を専門とする教員が考案してきたが、退職されたため、次の教員の採用まで館員が考えることになった。そこで一旦これまでの特別展を振り返り、これからの活動に向けてのヒントを得たと思ったところからこの企画は始まった。

まず、手始めに特別展の分けを考えた。開館当初は当時の各学科の教員が持ち回りのようにして企画を担当していた。ポスターやチラシに共催とはうたっていないが、内実は博物館と学科の共催という形だった。第12回特別展から共催や協力の記載が始まり、学内と他館や民間企業などとの協力という形もあった。そして旧短期大学(以下「短大」という。)の研究室から移管された資料を展示し、第1回から第6回まで6回続くシリーズ展となった移管資料展と三つにくれることがわかったため、この区分で構成を考えることにした。

1. 資料の選定

資料の選定に当たっては、他館等から借用する展覧会であると手元に残っていないため、その際に収集した資料が多く残る特別展を中心とすることにした。

学内との共催展からは、旧人文学部工芸文化学科の

教員が中心となった第3回特別展「竹と生活文化」から竹製品を、同学部日本文化学科の教員が中心となった第8回特別展「暮らしの中の度量衡—ながさ・かさ・おもさ—」から秤、ものさし、升の資料を選んだ。また、第12回特別展「大江文庫にみる江戸時代の料理ものがたり」は附属図書館(以下「図書館」という。)との共催ということを明確にした企画であり、さらに学内で特別展実行委員会を結成して臨んだという特別感もあることから、特殊コレクションの「大江文庫」から本草書と料理書を選んだ。開館20周年記念とうたった第22回特別展「子どもの誕生と日々の暮らし江戸時代から現代へ」は図書館と現代生活学部児童学科との共催であり、「大江文庫」所蔵の江戸時代の教育書を選んだ。

他館等との共催では、在日ペルー・ボリビア大使館の後援を得た第18回特別展「中央アンデスの編む 織る」から、帽子や組紐、肩掛けなどを選んだ。また、近隣地域のエコミュージアムや博物館との協力があつた第20回特別展「写真展 あの時、あの時—相模川から境川周辺風景—」から昭和39(1964)年と平成17(2005)年の空中写真を選んだ。大学の創立90周年記念ということと民間企業と協力した第25回特別展「本気で見せます!江戸の料理」から料理標本を選んだ。

移管資料展のうち、第1回「40年ぶりに目覚めたオートクチュール—P・カルダンとE・ウンガロ—」の洋裁研究室資料からはピエール・カルダンとエマニュエル・ウンガロそれぞれのオートクチュールスーツとドレスを1点ずつ選んだ。第2回「うっとり…レース一本の糸からつくる美空間」・第3回「民族衣装ってポップ 刺繍」の手芸研究室資料からはアンティークレースや刺繍が施されたアジア圏の民族衣装や欧州のバッグ類を選んだ。第4回「きもの、いとおかし—收藏品ベストコレクション—」・第5回「きもの、乙女たち

*川本 利恵(かわもと りえ) 令和3年度生活文化博物館学芸員

のハレ姿」の和裁研究室資料からは着尺地と帯、打掛などを選び、第6回「染—しぼる、ふせる、おく—」の工芸染色研究室資料からは染色方法の異なる浴衣地やクロス、バッグ類を選んだ。

なお、各研究室名は学科名やカリキュラムによって名称が変更されているが、専門分野が想定でき、かつ慣れ親しんだ名称を使用した。

2. タイトルの決定

30年を振り返る企画ということでタイトルを「東京家政学院生活文化博物館の30年」と考えたが、堅いイメージのため副タイトルにまわすことにした。印象に残る言葉がほしいが突飛すぎてもと悩みつつ、これを機会に新たに始まる活動ということを「出発」と変換し、タイトルは「新たな出発点」とした。

3. 展示構成

三つのくくりで特別展を区分することは決めており、資料の選定の際には他機関との共催・協力はそれだけで特別感があり、学内でも異なる学科との共催であるなど多様性をもたせ、移管資料展ではそれぞれの研究室資料が同じくらいの分量になるよう配慮した。

展示資料は、料理書や教育書15点、料理標本30点、竹籠類10点、秤類10点、空中写真2点、短大資料（ドレス、レース、刺繍作品、和装、アンデス関連）50点の計117点となった。

三つの区分となるので三部構成とし、名称としては「学内共催展」、「産官学共催展」、「移管資料展」と決めた。

構成は下記の通りである。

- 第1部 学内共催展
- 第2部 産官学共催展
- 第3部 移管資料展

5月26日（水）に館長と打合せを行い、展示の内容や進捗状況の説明をした。また、印刷物についても解説文と特別展一覧を筆者の執筆で掲載したい旨を説明し、館長にはあいさつ文を依頼した。

その後の状況は、毎週開催している博物館定例会議内で報告を行った。

4. 印刷物

今回は過去の写真を利用するため、データが残っていない分はネガフィルムやプリント写真をスキャナデータで利用した。

(1) チラシ

チラシは発行部数を例年通り3000枚とした。展覧会を振り返る展示なので表紙には過去すべての特別展チラシ表面を順番に並べて、それを一面に繰り返して表示する形式とし、資料は掲載しなかった。チラシ裏面には例年通り、あいさつ文と展示資料の一部を掲載した。9月1日（水）に入稿し、10月20日（水）に納品となった。

連なったチラシ表面の倍率を下げることで背景の壁紙のような扱いにして文字情報をその上に配した（写真1）。

チラシ裏面（写真2）はあいさつ文と資料写真6点、町田・三番町両キャンパスの地図を配した。



写真1 チラシ表面

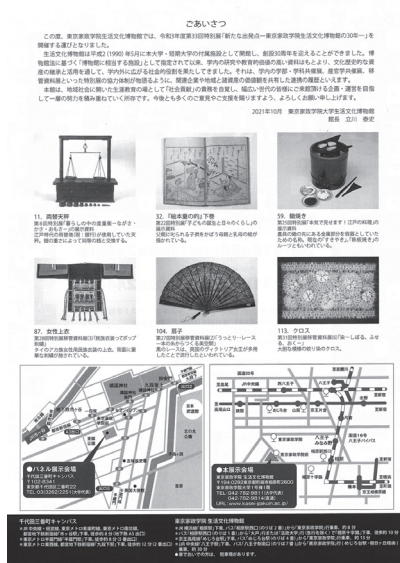


写真2 チラシ裏面



写真3 展示目録表紙



写真5 パネル展示のようす

特別展	タイトル	開催期間	開催・協力	展示内容
1	創立50周年記念展	1993.10.16(水)～17(木)		創立50周年
2	秋祭	1993.11.24(火)～12(日)		秋祭
3	創立50周年記念展	1993.11.24(火)～22(日)		創立50周年記念展
4	創立50周年記念展	1993.12.05(日)～12(日)		創立50周年記念展
5	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
6	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～12(日)		創立50周年記念展
7	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
8	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
9	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
10	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
11	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
12	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
13	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
14	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
15	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
16	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
17	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
18	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
19	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
20	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
21	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
22	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
23	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
24	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
25	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
26	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
27	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
28	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
29	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
30	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
31	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
32	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展
33	創立50周年記念展	1993.11.10(日)～11(日)		創立50周年記念展

写真4 過去の特別展一覧



写真6 机に置いた印刷物

(2) 展示目録

目録の表紙(写真3)にはやはりチラシと同様に過去のチラシを一面に配した上にいくつかの資料を配することにした。チラシと違いを出すために、こちらはチラシよりも倍率を上げ、さらにぼかしをいれて変化をもたせた。

内容はあいさつ文、筆者による解説文、過去の特別展一覧(写真4)、各資料の説明、特別展に関するコラム、展示資料一覧という形式とした。

9月1日(水)に入稿し、10月20日(水)に1,000部納品となった。納品後内容の確認をした際に誤字が見つかり、正誤表を作成して差込みをした。

5. 展示作業

(1) パネル展示

印刷物、解説パネルと垂れ幕が10月20日(水)に納品となり、三番町用の大判印刷したポスター、パネル類とチラシ、展示目録を梱包して学内便で配送した。翌週の10月25日(月)に三番町へ行き、1号館ロビーで展示作業を行った。昨年までは展示ケースがあったが5月末で廃止となったため、これまでのスペースの壁面を利用してパネル展示とした。事前に施設室へ壁面の利用依頼をしていたので、まず垂れ幕を向かって右側へ掛け、空いた空間の中央上段にあいさつ文のパネルを掛け、下段に解説パネル3枚を並べて掛けた(写真5)。また、垂れ幕のそばに机を置き、チラシと展示目録を置いた。机の前には大判コピーしたポスターを貼った(写真6)。今回は本展示の会期が終了するまでそのままとした。

(2) 本展示

パネル展示の作業と同時に本展示会場である町田の博物館展示室での作業が始まった。まず企画展の片づけを行い、10月27日（水）から展示作業に入った。

当館には、全体がガラス張りの「大ケース」と、大ケースの高さ半分あたりから上部がガラス張りの「中ケース」、上からのぞき見る高さの「のぞきケース」、中ケースの幅半分の大きさの「柱ケース」と称する4種類の展示ケースがあり、計画していた位置に展示ケースを移動してから、それぞれのケースへ資料を振り分けていった。

入口を入れて窓側に向かう壁面に解説パネルと特別展一覧のパネルを貼り、その下部にベニヤ板を組み立てて布で覆った展示台を設置し、第1部の始まりとして、竹籠類を置き、パーテーションで囲った（写真7）。隣に中ケースと柱ケースを並べ、秤、ものさし、升類と両替天秤（写真8）を入れた。窓側に沿って中ケースを3台並べ、2台に江戸時代の料理書（写真9）を、1台に江戸時代の教育書を入れた。続いて柱ケースと中ケースを並べ、第2部の資料としてアンデス地方の袋物や帽子、肩掛けなどを入れた（写真10）。そこから直角に曲がり、中ケース1台と柱ケース1台、中ケース1台を並べ、料理標本を入れた（写真11）。さらに直角に曲がり、大ケース1台、中ケース1台、大ケース2台を並べ、第3部の始まりとして、オートクチュールスーツとドレスを着用させたマネキンを2体入れ（写真12）、次に着尺地と帯（写真13）、続いて衣桁に掛けた打掛、そして民族衣装や壁掛など（写真14）を入れた。それに向かい合う壁面には大学周辺地域の空中写真2枚を掛けた。



写真8 両替天秤



写真9 江戸時代の料理書



写真7 竹籠類



写真10 袋物と帽子



写真11 料理標本



写真14 民族衣装と壁掛



写真12 オートクチュールスーツとドレス



写真15 アンティークレース



写真13 着尺地と帯



写真16 クロス

中央にのぞきケース3台と2台をそれぞれ背中合わせにして島を作り、3台のうち1台には刺繍が施された帽子やバッグ、皮手袋などを入れ、2台にはハンカチや扇子などのアンティークレース（写真15）を入れた。残る2台には、絞り染のクロス（写真16）や浴衣地などを入れた。向かいの壁面には、ベニヤ板に毛氈を巻いた台に衿やケープのアンティークレースを並べ、アクリル板で押さえて落下を防ぎ、壁に立てかけた。

6. 広報活動

本学教職員にはチラシや展示目録を配付し、学生には本学構内にポスターを掲示して周知をはかった。また、エントランスの管理棟の入口と第3号棟の入口、図書館の入口に垂れ幕を掛けた。なお、各新聞社、博物館、各県の教育委員会などの関係機関へチラシ、展示目録の配送を行った。

7. 特別展開催

昨年度の特別展から見学者に対しては事前予約の案内を出していた。町田の本展示についても同様で、チラシ上およびホームページにも要予約の文言を掲載した。三番町については予約不要としたが、見学である

ことを受付に申し出てほしい旨の文章をチラシに掲載した。

通常であれば開催の週末にはKVA祭（大学祭）が開催予定だったが、感染拡大のおり、今年度も中止となった。

今年も新型コロナウイルス感染症の感染状況に振り回された年だったが、特別展に関しては休館とすることなく会期を全うできたことは幸いだった。

おわりに

今回は過去の特別展を振り返るということで、改めて収集された資料が教員の専門的な目で選ばれた優れた資料であることがわかった。また、中心となって活動されていた教員が数十年も絶えず企画を考えられたこと、加えて当館だけではなく他機関と協力して内容を広げていくところなどに対して、感心し尊敬の念を覚えた。タイトルのように「新たな出発点」とするはずがさらにプレッシャーがかかった心地である。ただこれからは悩んでとどまったままにならず、館長や研究員の先生方に相談を持ち掛けてみようと考えている。

最後に、多大なご協力をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。